

授業科目	* 疾病学総論					実務家教員担当科目	○
単位	1	履修	必修	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	定永 敦司						
授業概要	<p>実務家教員として病院勤務経験を有する内科医が、臨床経験をもとに様々な生体反応や疾病の病態生理を解説する。</p> <p>病態生理をもとに疾病を理解することは、適切な看護を行うために不可欠である。</p> <p>授業の前半では「炎症とは何か」など臓器を超えた多くの疾病に共通する生体反応の病態生理を解説する。後半では代表的な疾病の病態生理（疾病発生のメカニズム、疾病によって人体の構造と機能がどのように変化しているか）を解説する。</p> <p>生体反応や疾病の病態生理を理解することで、2年次の「疾病学各論Ⅰ & Ⅱ」で学習する疾患の症状、検査異常、治療法に連続することができる。</p>						
授業形態	対面授業			授業方法	<p>自主学習支援のため、講義資料の一部を Classroom にアップします</p> <p>テーマを提示し、グループワークやディスカッションを行います</p>		

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	1 病態生理に関する基本的な知識を身に付け、人に説明することができる 2 壊死、炎症、循環障害、腫瘍化、など臓器を超えた病的な生体反応の病態生理を説明できる 3 各臓器における代表疾患の病態生理（発生メカニズム、構造と機能の変化）を説明できる
理想的レベル	病態生理の知識をもとに、各疾患の症状や検査異常を理解し、看護に結び付けることができる

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	
小テスト	20%	
レポート	0	
発表（口頭、プレゼンテーション）	0	
レポート外の提出物	0	
その他	20%	授業貢献度

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	-	ナンバリング	NU11104J
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	--------	----------

学習課題（予習・復習）

テキストの予習、配布資料や小テストの復習	1回の目安時間（時間）
----------------------	-------------

授業計画

第1回	テーマ：イントロダクション テーマ：細胞・組織の構成とその障害 壊死とアポトーシスなどについて解説する。
第2回	テーマ：再生と修復、循環障害 創傷治癒、血栓、浮腫などについて解説する。

第 3 回	テーマ：炎症、免疫 炎症、アレルギーなどについて解説する。
第 4 回	テーマ：感染症、代謝異常 感染、代謝の総論について解説する。
第 5 回	テーマ：老化、新生児 加齢による変化、新生児の特徴を解説する。
第 6 回	テーマ：先天異常、腫瘍 染色体異常、腫瘍の発生メカニズム、病態などを解説する。
第 7 回	テーマ：循環器疾患 循環器の代表疾患の病態を解説する。
第 8 回	テーマ：呼吸器疾患 呼吸器の代表疾患の病態を解説する。
第 9 回	テーマ：消化器疾患 消化器の代表疾患の病態を解説する。
第 10 回	テーマ：内分泌疾患、血液疾患 内分泌器と造血器の代表疾患の病態を解説する。
第 11 回	テーマ：腎疾患、泌尿器疾患、生殖器疾患 腎臓、泌尿器、生殖器などの代表疾患の病態を解説する。
第 12 回	テーマ：脳・神経系 脳・神経系の代表疾患の病態を解説する。
第 13 回	テーマ：運動器疾患 運動器の代表疾患の病態を解説する。
第 14 回	テーマ：感覚器疾患 感覚器の代表疾患の病態を解説する。
第 15 回	テーマ：まとめ 演習問題
テキスト	教科書：カラーで学べる病理学（第5版）、渡辺照男編、ヌーヴェルヒロカワ
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書：看護のための臨床病態学（改訂5版）、浅野嘉延 編、南山堂
課題に対するフィードバックの方法	小テストや定期試験は返却します
学生へのメッセージ・コメント	教科書に沿ったスライドによる講義形式の授業を行います。資料は抜粋して配布します。小テスト、試験対策の演習も行います。 疾病に関する知識は看護師の日常業務に不可欠であり、看護師国家試験でも大きなウエイトを占めています。 「形態機能学」で学習する正常な人体の構造と機能を復習しながら、この講義に参加して下さい。 形態機能学の講義と連携して行います。 この講義で学習する内容は、2年次に開講される「疾病学各論Ⅰ & Ⅱ」「薬理学」「看護のための臨床検査」と密接に関連します。疾病を多面的に捉えて理解するように心掛けて下さい。

講義は教科書に沿って行い、毎回小テストを行います。該当する箇所を予習するとともに、小テストを中心に復習して下さい。

日頃からジャーナルやインターネットなどで疾病や健康についての関心を高め、分らないことは積極的に教員に質問したり、図書館で調べてみてください。

